

# 四、運動方針大綱

## 一、客觀的情勢

世界資本主義の最も強力なアメリカの屋の層を根底からユリ動かし、株式恐慌以來、世界の資本主義國、日本、イギリス、ドイツ、フランス、支那、印度、殖民地では不景氣が益々に深刻なり、世界資本主義は、自己の生命を一日て、永く、つぎつぎと、死と行つてをが覚めてゐる。

賃銀の如きも昨年中に三割五分を減らされ、その上、賃銀の不拂工場が全国に八百五工場、不払賃銀は二百十数万円と達し、勞働者の生活は極度の不安と窮乏にさらされてゐる。

日本における農民の生活については、何時も、豊作飢饉と云ふ言葉で表はされてゐたが、その根本的の問題は、耕作地が諸國よりすくなく、土地所有制による地主の搾取によるものである。殊に最近に於ける農産物の下落、租税公課の加重、肥料の値あがり、高利による借金等によつて、農民の生活は飢饉状態にある。税金、日用品の支払、医者、藥代が、米、穀類を交換され、青森秋田ではワラビ、フスマを喰ひつゝして、  
[redacted] 有様である。

斯くの如き病を飢饉のどん底にある勞働者、農民の生活のための斗争は、プロトリアートの指導の下に益々進展してゐる。  
本年一月から六月までの労力争議は、七八件で、水等の斗争は、日和見